

今日は明日の最終発表のための準備を各自、先生方と相談しながら進めました。現地での調査が必要な学生3人は、朝9時に集合して、私たちが宿泊している施設があるUPLB(フィリピン大学ロスバニョス校)のキャンパス内やキャンパスを出てすぐ外の市街地でアンケート調査をしました。今まで海外でのアンケート調査を行ったことがなかった私たちは、初めの1人に話しかけるのを戸惑っていました。フィリピンの学生さんたちは、私たちが日本の学生と知ると丁寧に質問に答えてくれ、その優しさのおかげもあり、私たちも話しかけることに徐々に慣れていきました。



様々な人が集まれるキャンパス内の広場

キャンパスはとても広く、近所に住む子供連れやサッカーをしにきた高校生たちが来ていたり、広場では学生が集まってダンスをしていたり、地域の集まりなども開かれていました。私たちの大学でも、散歩をしていたり、学食やカフェで食事をしていたりする地域の方をよく見かけます。大学はどの国でもその人が集まれる場所なのだと感じました(写真)。また今日は日曜日ですが、キャンパス内には多くの学生がいました。その中には、輪になって1人ずつ英語のスピーチを練習しているグループや、廊下の椅子に座り本を読み勉強している学生もいました。日本の大学では、日曜日に学生はあまり登校しないイメージを私は持っていたので、フィリピンの日曜日のキャンパスを見て驚きました。また話しかけたすべての学生が英語をととても流暢に話していました。フィリピンの学校では、英語教育が充実していて、全ての教科の授業を英語で行うこともあり、学生以外でもほとんどの方が英語を話すことが出来ます。フィリピンの英語教育に関して最終発表を行う学生もいるので、明日の発表でフィリピン人の英語能力の秘訣を知りたいと思っています。



ラグナ湖の水を採取している様子

また、フィリピンの水質を調査するため、ラグナ湖というフィリピンで最も大きな湖へ行きました。ラグナ湖はマニラの近くであり、その周りにはゴミ捨て場があることから水質汚濁が問題視されています。ラグナ湖に着くと、湖の脇まで行き、紐を付けたペットボトルを沈めて水を採取しました(写真)。ラグナ湖の近くには市場がありました。私たちが訪れた2時半頃にはすべての店が閉まっていたましたが、朝には多くの人を訪れ、賑わっているそうです。市場で私が最も驚いたことは、どの店にも簡易的な布のエコバックがぶら下がっていたことです。日本のレジ袋のようなプラスチック製の袋は見当たりませんでした。

私たちが滞在しているロスバニョスでは、スーパーやコンビニだけでなく小さな市場でも、プラスチックの袋を使うことが禁止されているそうです。違反した場合には罰則もあります。フィリピンの廃プラスチックの動きは想像以上に進んでいました。

朝早くから作業をして先生に確認してもらい、また訂正するという作業の繰り返しの忙しい一日でし

たが、今日も果たさなければいけないミッションが私たちにはまだ残されていました。もしかすると、これがこの旅で一番気合のいるミッションだったかもしれません。

それは、ついに念願のパロットをいただくことです。パロットとは羽化直前のアヒルの卵を茹でたものを少しずつ割りながら食べるフィリピンではおなじみの食文化の一つです。日本では到底馴染みのない食べ方ですがタイやベトナムなどの東南アジアでは同じような食べ方がされているようです。この食べ方があることは以前から知っていましたが、日本で暮らしていると挑戦する機会など訪れるわけがありません。



パロットを販売しているお店

訪れたお店は、UPLB の宿舎から車で 20 分ぐらいのところにある卵を扱っているお店です（写真）。パロットのほかにも卵の卵黄を使ったプリンのようなスイーツも売られていました。

いよいよ卵とご対面。購入した八個の卵は熱された直後だったのかとても熱く、はじめは手に持つこともできませんでした。少し冷めたころを待って、恐る恐る空洞にひびを入れて中をのぞくと、そこには鳥の姿をした物体が目を閉じて体を丸めていました。うっすら羽が生えかけている様子を見ると、割るときに喝を入れたはずの気持ちに隙ができてしまいました。とはいえ、もう開けてしまったので自分で食べるしかありません。先に食べ始めた鈴木さんがもう食べ終わったのをみて、やっと気合を入れなおすことができました。まずは中の液体を飲むのだと、運転手の方が教えてくださったので殻に口をつけ少しすすってみたら茶碗蒸しのような味がしました。液体を飲み終えたところで、またゆっくりと殻を割っていくと、その姿がよりはっきり確認できました。はっきりと見てしまい、そのまま口にするのは少々恐怖に負けそうだったので、目をつむって口に入れてみました。鳥肉の味というより、濃い目の卵黄のような味で、少々振った塩が程よく効いていて、一回口に入ればすんなり食べることができました。

こうして無事今日のミッションも終わりました。また食べたいとは今はまだ思えませんが、およそ日本にいただけでは体験できないことができたことは嬉しかったです。最後の最後でいい経験ができました。栄養もしっかり補給したので明日のプレゼンの準備を最後まで気を抜かずにやり遂げたいと思います。

海外実習 10 日目, 今日午前中に University of Philippines LOS BANOS College of Agriculture and Food Science(以下, UPLB) の農学部長の先生にお会いしました。午後にはこの海外実習の総まとめであるプレゼンテーションを UPLB の食品化学専攻の学生達の前で発表しました。今日のレポートでは, 大学訪問の様子とプレゼンテーションの感想, 学生との交流について述べようと思います。

最初に私たちが訪問した UPLB について紹介します。UPLB はフィリピンのロスバニオスという都市に位置する大学で, College of Agriculture and Food Science の他に, いくつかの College (大学) から構成されます。農業工学や農業経済, 獣医学など, 畜産に存在する研究分野も UPLB にあります。食品や農業生産の研究では, 特に重要な研究分野としてアヒルの生産, 食品開発があります。アヒルはフィリピンでの特徴的な産業で, 主に卵の塩漬けや肉が食用として流通しています。学部長の先生からこのような地場産業について研究する楽しさを教えていただきました。先生から UPLB オリジナルのお土産もいただき, とても嬉しかったです。

午後は我々学生によるプレゼン発表会を行いました。この発表のために我々学生は前期の国際ディベート論の授業をはじめ, 半年近くの期間を準備に費やしてきました。プレゼン発表は, その努力の集大成ということで, 皆大変に緊張しつつも, 今までの成果を発揮できる場でもあり, 非常に意気込んでいました。各学生のプレゼンテーマは以下の通りです。

①吉田萌葵「フィリピンでのフェアトレードバナナの消費拡大の可能性について」

日本とフィリピンにおけるフェアトレードマークの認知度と購買意欲についてアンケートをとりまとめました。

②坂井春穂「野菜輸送中のロス問題について」

フィリピンでは日本と異なり, 野菜をトラックで輸送する際の食品ロスが多いです。そこで日本のようにトラック輸送の際に段ボールを使用した場合の費用と便益についてまとめました。

③青木みのり「水質汚染について」

日本とフィリピンの川, 湖での水質検査, 水道水中の残留塩素測定を行い, その結果をまとめました。

④鈴木友莉子 「日本とフィリピンでのレジ袋の普及度の違いについて」

フィリピンでの調査の結果, 日本ではレジ袋が一般的なのに対して, フィリピンでは生分解性プラスチックや紙袋が一般的だということが分かりました。

⑤松本翔 「日本とフィリピンでの英語教育の違いと英語能力の差について」

なぜフィリピンの方々の英語能力は高いのか, その要因についてアンケート調査や実際のフィリピンでの生活の経験をもとにまとめました。

フィリピンの方々は非常に陽気な人柄の方が多く, 我々のプレゼン中にも日本人とはまた違ったリアクションが多くありました。私たちの英語でプレゼンの主張が伝わるかどうか不安でした。しかし, 日本とフィリピンのお米の価格差などに驚きの反応を示したり, 軽い冗談に笑ってもらえたり, 嬉しかったです。ただ, 意外にも質疑応答に対しては消極的で, 5 人中 2 つしか質問・コメントをいただけませんでした (残念ながら 1 人体調不良でプレゼン発表を断念しています)。これは我々の英語・プレゼン能力が不十分であった結果であるように思います。

現在、日本では小学五年生から英語の授業が始まりますが、文部省は2020年から、現在の小学5年生よりも早い3年生からの英語教育を開始することを目標としています。一方、驚くことにフィリピンは幼稚園から英語の教育が義務付けられており（フィリピンは幼稚園の1年間を義務教育化しています）、国語以外の授業がすべて英語のみで行われています。要するに英語「を」学ぶのではなく英語「で」学んでいるわけです。日本もフィリピンのように英語教育のレベルが高まりより、より国際化が進むことを期待しています。

プレゼン後は、ウェルカムパーティーが行われ、学生同士で交流を行いました。写真はその際に撮影した集合写真です（UPLBの学生数はこの写真の倍以上でしたが、授業がある学生もあり、撮影の時点で約半数が既に帰ってしまいました）。UPLBの学生と様々なことについて話せたことは、とてもいい思い出になりました。



UPLBの学生と

UPLB での個人のプレゼンも無事終わり、今日は日本に帰国する日です。朝 6 時に宿のロビーに集合しマニラ空港へ出発です。空港ではそれぞれ友人や自分用に、お土産を購入していました。スターバックスコーヒーのフィリピン限定デザインマグカップを購入する人もいれば、バナナチップスやドライマンゴーを購入する人もいました。

午前中の成田空港行きの飛行機に乗り、14:30 頃に日本に帰国しました。18 時の新千歳空港行きの便までかなり時間があつたので、各自好きなように過ごし搭乗口で集合ということになりました。1 日に 2 回も飛行機に乗るという経験がなかなかないため、新千歳空港に到着したところにはみんな疲れ切っていました。

ここからさらにバスで帯広に約 3 時間かけて移動したのですが、途中でコンビニに寄る機会がありました。一週間以上フィリピンの食べ物を食べていたので、日本の味が恋しくなっていたのかもしれませんが、フィリピンのパラパラのお米ではなく、日本のもちもちしたお米を食べた時、慣れ親しんだ味に感動しました。

日付が変わった頃 (AM12.30 頃) に畜大に到着しました。実習はこれで終わりですが、帰国後は報告書を作ったり、大勢の前で各個人のプレゼンを行う機会が再度あるのでしっかり準備していきます。

9 月 7 日から 11 日間にわたったフィリピンにおける海外実習では、何よりも、先生方 3 名と学生 6 名全員が無事に日本へ帰国することが出来て、よかったです。

この 11 日間で私たちはフィリピンの様々な場所を訪れることが出来ました。マニラでは、農務省を訪問しフィリピンの農業の概要について学びました。ムニョスでは、カラバオセンター (水牛研究所) と PhilRice (稲作研究所) で、水牛の乳利用やフィリピンのお米について勉強しました。バナウェでは、稲作農家を訪ね、世界遺産の棚田を目に焼き付けました。そして、ロスバニョスでは、バロット (アヒルの卵) などのフィリピンの食文化にも触れることが出来ました。

私たちが訪れた各機関の方々や、実習に同行して下さった UPLB 大学のデニス先生や運転手さんたちは、親切な方ばかりで、私たちが不慣れな英語での質問にも、とても丁寧に答えてくださいました。また、日本に興味がある方も多く、私たちも少しは日本の良さをフィリピンの方々に伝えられたかな、と感じています。また、旅行でフィリピンを訪れる際には、絶対に行くことが出来ない研究施設を訪問することが出来ました。この実習で学べたことにはとても価値があり、貴重な経験が出来たと感じています。今後帯広畜産大学で学んでいく上で、フィリピンで吸収したことを活かしていきたいです。

また、4 月から「国際協力ディベート論」の講義が始まり、フィリピンへ行くことを決心した学生たちは、それぞれ自分が興味を持つ課題を決めて、フィリピンでの最終発表に向けて、文献やインターネットなどを用いて準備を進めていました。英語でプレゼンテーションをする上で大切な事や、スライドの構成の仕方など、私たちは何も分からない状態でスター

トしました。先生方からご指導いただき、日本でできる準備を済ませ、フィリピンでは現地調査を行うことが出来ました。現地ではアンケート調査を行った学生も数名おり、多くの方々の協力を得て、調査を行いました。発表当日を迎えられたとは、多くの方々のおかげです。協力してくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

実習終了後は、今回フィリピンで学んだことを忘れないよう、それぞれ学んだ内容をまとめて、今後活かしていきます。また、現地で見たものや学んだことを多くの人に伝えていきたいです。

最後になりますが、海外実習にご同行いただき、いろいろなことでサポート頂きました、3名の先生方（岸本先生、耕野先生、得字先生）に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。